

令和4年度 出雲サンホーム 事業計画

一人ひとりの人権を尊重し、誰もが地域の中で自分らしく、共に生きる社会の実現を目指します。

1. サービス提供

(1) その人らしい暮らしを応援します。

- ・ご利用者の人権を尊重し、常にご利用者の立場に立ったサービスを提供します。
- ・個々の想いや出来る力に着目した個別支援計画を策定し、実施します。
- ・新しい生活様式のもとで、新たな活動方法を模索し、ご利用者が充実した生活が送られるよう支援します。
- ・ご利用者の選択の場が広がるよう、様々な情報を提供し、自らが望まれる暮らしの実現に向け、チャレンジすることを支援します。
- ・ご家族との連携を深め、共にご利用者を支えます。

(2) 選ばれるサービスを目指します。

- ・地域のニーズ・課題について、情報収集を行います。
- ・幅広い世代からご利用いただけるサービスを提供します。
- ・二世帯・三世帯利用を推進します。

(3) 安全で信頼のおけるサービスに取り組みます。

- ・職員の確保と質の向上により安定したサービスを提供するとともに、ご利用者数“6020”を目指し、前年度より利用率を向上させます。
- ・新型コロナウイルス感染症の情報収集・予防に努め、サービスが安定的・継続的に提供できるよう努めます。また、仮に一時中断した場合においても、早期の業務の再開に努めます。
- ・福祉機器等を効果的に活用し、抱え上げない介護を推進します。
- ・マニュアルを活用し、事故の未然回避を図り、適正で質の高い安心できるサービスを提供します。
- ・事故等が発生した場合は、速やかに対応し再発防止に努めます。

- ・法令や職員倫理規程等を遵守し、信頼されるサービスを提供します。
- ・個人情報については、利用目的を明確にし、ご利用者・ご家族の理解を得ながら慎重に取り扱い秘密を守ります。
- ・事業所での自己評価や外部評価、また、ご利用者やご家族の意見等を真摯に受け止めサービスの向上に努めます。

2. 人材育成

(1) 職員の資質向上を目指します。

- ・個々の能力が発揮できるよう、自己認識(内的・外的)に努めます。
- ・職員一人ひとりが、仲間を思いやり、チーム力を高めます。
- ・職員の指導・育成は、エルダー制の実施やマニュアルに基づいて行います。
- ・階層別の役割とその求められる能力を理解し、自己の向上に努めます。
- ・内部研修を充実させ、個々のレベルアップを図ります。
- ・ご利用者との関わりや地域との交流を通し、心豊かな人材となるよう努めます。

3. 地域貢献

(1) 地域福祉の拠点を目指します。

- ・地域と積極的に関わり連携を深め、施設の機能と強みを活かして、求められるニーズに柔軟に対応します。
- ・地域生活支援拠点等の機能を担う事業所として、その機能を果たせるよう体制を整えます。
- ・地域の団体と協働し、地域の課題に取り組みます。
- ・福祉教室を通して、地域の方が福祉に触れる機会を作ります。
- ・交流ホームを地域の方に活用していただけるよう、積極的に取り組みます。
- ・施設の取り組みや魅力の発信及び福祉の幅広い情報の提供を行ないます。

4. 食生活

(1) 楽しみのある食事を提供します。

- ・ご利用者の声に応え、「楽しさ」「おいしさ」が感じられる食事提供に努めます。
- ・旬の食材、季節の行事食を取り入れ、「季節を感じる食事」を提供します。

(2) 一人ひとりの健康を支えます。

- ・ご利用者と共に食生活と健康について考え、ご家族と連携をとりながら、一人ひとりのニーズと栄養・健康状態に着目した栄養ケアマネジメントを行います。
- ・栄養ケア計画書に基づいて食生活を支援し、健康の維持・増進につなげます。
- ・在宅ご利用者の食事と健康について共に考えていきます。

(3) 食の安全に取り組みます。

- ・ご利用者と共に安全と衛生に心がけ、食中毒、感染症対策に努めます。

5. 医療

(1) ご利用者の健康維持を推進します。

- ・日々の健康状態を把握し、疾病の予防・早期発見に努め、ご利用者が健康で過ごせるよう支援します。
- ・全身的な健康維持の為に、口腔ケアを徹底します。
- ・入所ご利用者へ健康診断(血液検査・胸部レントゲン検査等)を実施します。
- ・体調不良時、緊急時には迅速な対応を行います
- ・ご家族、嘱託医や他の医療機関との連携を密にし、適切な処置・対応を行います。

(2) 感染症対策に努めます。

- ・感染症の流行情報を収集・伝達し、感染予防に取り組み、未然回避に努めます。
- ・感染症発生時には、リスクマネジメント委員会と共に発生状況を把握し、マニュアルに沿って感染の拡大防止に努めます。

(3) 安全衛生に努めます。

- ・安全で快適な職場環境を整えます。
- ・職員の健康診断を行い生活習慣病の予防、産業医と連携しメンタルヘルスケアに努めます。
- ・福祉機器等を導入・活用し、職員の腰痛予防に努めます。

6. リハビリテーション

(1) 一人ひとりの力を日々の生活につなげます。

- ・先の暮らしを見据えながら、個々のニーズと状況に応じた計画書に基づいてリハビリを実施します。
- ・他職種と情報を共有し、日々の生活の中で持っている力を活かせるよう支援します。
- ・「出来る」を見つけ「出来た」を共感することで、新たな一歩が踏み出せ、暮らしの場が広がるよう支援します。

(2) 福祉用具の活用や生活環境の改善を行い、生活の質の向上を図ります。

- ・心身機能の変化や使用環境に適した福祉用具を活用出来るよう、関係諸機関と連携を取りながら相談対応や情報提供を行います。
- ・ご利用者と共に生活環境について考え、自立の可能性が広がるよう支援します。

7. 住環境

(1) 快適な住環境の維持・改善に努めます。

- ・清潔で快適に過ごせるよう、ご利用者と共に生活環境を整えます。
- ・建物・設備・機器の整備、維持管理に努め、安全で快適な住環境を提供します。
- ・業務の効率化に努めます。

(2) おもてなしの心を大切にします。

- ・明るく思いやりのある対応に心がけ、心地良い空間を作ります。

8. 防災・防犯

(1) 災害及び緊急事態に備え、防災管理体制を整えます。

- ・生命の安全を確保する為の環境をご利用者と共に整えます。
- ・消防計画、地震防災管理計画、洪水時の避難確保計画、事業継続計画に基づき、法人内施設や地域との連携を図り緊急時の管理体制を整えます。
- ・災害時における必要な備蓄品を確保し、緊急時に備えます。
- ・緊急時の職員連絡手段として防災メールを活用し、迅速な対応ができるよう、体制を整えます。

(2) 定期的な防災・防犯訓練を実施します。

- ・地域及び関係諸機関と連携を図り、訓練の実施にあたっては、初動対応から一連の流れを検証し実践力を高めます。

9. 相談支援事業(特定相談支援・障害児相談支援・一般相談支援)

(1) 一人ひとりの想いを尊重し、暮らしを支えます。

- ・年齢や障害種別、住まいの場等に関わりなく、その人らしくいきいきとした暮らしが実現できるようケアマネジメントします。
- ・サービス等利用計画は、ご利用者やご家族の意見を伺いながら、各関係機関との連携のもと情報の共有を図り、適切な福祉サービスの利用と社会参加や自律につながるよう作成し支援します。
- ・施設や病院からの地域移行は、自分で選んだ住まいの場での生活が実現できるよう、体験利用や体験宿泊をするなど、新たな一歩を応援します。
- ・緊急事態に対応できるよう体制を整え、地域での生活が継続できるよう支援します。
- ・障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行は、ご利用者やご家族の想いを大切にしながら進めます。
- ・情報発信の窓口として、ニーズに即した情報の提供を行います。

(2) 必要とされるサービスを「かたち」にします。

- ・地域のニーズや情報を基に、地域の方や行政、各関係機関との連携を図りながら地域の社会資源の開発・改善に努めます。
- ・地域の多様なニーズに耳を傾け、必要とされるサービスを出雲サンホームで展開できるよう共に努めます。

(3) サービスの改善に取り組みます。

- ・事業所での自己評価や外部評価、またご利用者やご家族の意見等を真摯に受け止め、サービスの向上に努めます。

出雲サンホーム 事業報告

1. 主要事項

令和4年度出雲サンホームの利用状況は次のとおりとなった。(単位%、以下同じ)

- ・施設入所支援事業(定員60)の利用率: 92.0(前年度98.0)
- ・生活介護事業(定員60)の利用率: 96.8(前年度103.2)
- ・短期入所・共生型短期入所事業(定員8)の利用率: 21.5(前年度33.7)

施設入所は定員数の60名の状態でスタートした。近年ご利用者の高齢化・重度化が顕著となり長期の入院や退所者が増え、その影響が結果にも大きく反映された。年間を通して8名の退所者に対して、新規の入所者は4名に止まった。7月には、施設においてクラスターが発生し全部署・全職員で対応に当たり、通所系のサービスを一時休止し関係機関と連絡・相談しながら事態の収束に努めた。

今後は、早期に定員人数までの受け入れと、入所待機や新規利用者も少なくなる中、各サービスにおいて担当者と連携を図りご利用者獲得に向けた動きを進めていきたい。

地域福祉サービスセンターソレイユの利用状況は次のとおりとなった。

- ・生活介護・共生型通所介護事業(定員20)の利用率: 75.0(前年度78.8)
- ・自立訓練事業(定員6)の利用率: 10.6(前年度15.8)
- ・放課後等デイサービス事業(定員5)の利用率: 48.7(前年度54.9)

生活介護事業は新規利用者4名に対し、終了者は2名となった。共生型の通所介護の利用も一定数あり収入の維持に繋がっている。通所サービスにおいては、今年度も新型コロナウイルス感染症の感染状況に大きく左右され、施設でクラスターが発生した際には一部事業を休止して対応した。自立訓練事業、放課後等デイサービス事業においても利用率が前年を下回る結果となった。各事業においてそれぞれの事業の機能や特色を発信し新規のご利用者獲得に繋げていきたい。

令和4年10月より新たに介護職員等ベースアップ加算が創設され、当事業所でも加算を取得し職員の処遇改善を図った。

施設整備としては、福祉リフト車両1台、走行用リフター3台、施設の空調設備を一部更新した。今後も福祉機器等を効果的に活用しご利用者の快適性や職員の業務の効率化と省力化を図れるようにしていきたい。また、施設の老朽化に伴う改修についても具体的に準備をしていきたい。

地域活動では、新型コロナウイルスの感染状況を確認しながら、近隣の高校生を対象とした介護

教室や小学生に向けた福祉教室を今年度も継続して実施し介護や福祉についての理解を深める取り組みを行った。今後も地域共生社会の実現に向け、施設の機能や役割を自覚し、地域との関わりを大切に組み組んでいきたい。

2. 評価・反省

1) サービス提供

【出雲サンホーム】

生活介護事業・施設入所支援事業

今年度も新型コロナウイルス感染状況に合わせて外出や行事等の対応を行った。ご利用者の方へも手洗い・消毒、食事の際の黙食の協力、出来る方にはマスク着用をして頂き、施設全体で感染症対応に取り組んだ。

面会や電話連絡の際に日々のご様子をお伝えさせて頂いたり、また、個別支援計画作成時にはご利用者の普段のご様子をお知らせするなど、ご家族との繋がりを大切にさせて頂けるよう努めた。

ご利用者のコミュニケーションを大切に、自己選択・自己決定して頂きながら、ご利用者一人ひとりの出来る力に着目し、望まれる生活の実現に向けた個別支援計画の作成と実施に努めた。

地域の方と施設内で交流する機会は少なかったが、外出など出掛けられる際に地域の方と交流されたり、地域に関する情報提供をしながら、ご利用者が地域の一員として安心して暮らせるよう支援した。

ご家族の皆様にも感染症対応へご協力頂いた。納涼会では家族会より抽選の景品の協賛を頂き、ご利用者に楽しい時間を過ごして頂く事ができた。また、家族会研修会にて平田本陣記念館への外出を計画し、ご家族と一緒に楽しめる機会を設ける事ができた。

安全で信頼のおけるサービスの提供について、福祉用具の活用のため、職員に向け研修を行い、安心・安楽、抱え上げない介護の実施に取り組んだ。また、「倫理規程に基づく行動指針」の読み合わせを行い、日々の業務の振り返りながら、権利擁護の意識を高め、支援に活かせるよう努めた。

今後は、コロナ禍で出来なかった事が少しずつ再開されるようになると思うが、新型コロナウイルスに限らず、様々な感染症について都度対応できるよう取り組んでいきたい。その中でご利用者の方が地域の中でその人らしく安心して暮らせるような支援を行っていきたい。

短期入所事業・日中一時支援事業

新型コロナウイルス感染症の対策を取りながら、ご家族のご理解ご協力のもと、定期の利用や希望に合わせて短期入所、日中一時を調整し継続して受け入れることができた。緊急時の利用依頼もお断りすることなく受け入れを行った。共生型短期入所事業についても、定期的に継続してご利用して頂いている。

関係機関との情報共有については、感染症対策のためその都度連絡を取り合い、個々の身体状況や障害特性に合わせた支援方法を把握し、ケアや支援の改善、見直しを行い対応できた。事業所での様子もご家族へ書面や口頭でお伝えすることでより安心してご利用して頂けるように努めた。今後も地域の方が安心して在宅で暮らせる様、個々のニーズを汲み取りより良いサービス提供に努めていきたい。

【地域福祉サービスセンターソレイユ】

生活介護事業・自立訓練事業・共生型通所介護事業

ご利用者一人ひとりの人権を尊重し、個々の思いや希望に添って作成した個別支援計画を基に、ご家族や関係機関との連携を図りながらサービス提供に努めた。実際の支援については、新型コロナウイルス感染症の対策を徹底しながら、季節の行事やご利用者から発信された創作やスポーツ系の活動、野菜作りやフラワーアレンジメント等さまざまな活動を実施した。また、感染状況を見ながら吉栗の郷や立久恵峡への紅葉外出の機会を設け、楽しみのある日常が過ごせるよう努めた。これまで行ってきた大判焼きの作成や販売、喫茶等の生産活動においては、コロナ禍にて実施する事は難しかったが、次年度はご利用者とともに活動方法を模索し再開に向け取り組んでいきたい。

機能訓練では、身体機能を維持し在宅生活の継続や、新たな目標に向けたチャレンジなど、個々のニーズや状況に応じた個別支援計画を作成し、リハビリの専門職や関係機関と情報交換し連携しながら支援を行った。

共生型通所介護事業は、ご家族や居宅介護支援事業所との情報共有を図りながら、個々のニーズに合わせた活動や身体状況に応じて必要な支援に努めた。

今後も、ご利用者が住み慣れた地域の中で望まれる暮らしが継続できるよう個々の思いやニーズを大切に、事業所の特色や強みを活かしながら、より良いサービス提供に努めていきたい。

障害児通所支援事業

ご利用児一人ひとりの人権を尊重し、障害特性を理解し、個別支援計画を基に支援を行い、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、環境面に工夫を取り入れながら支援を行った。

継続するコロナ禍において制限がある中での療育だったが、季節を感じる様な材料を使用した創作の他、五感を刺激するような活動、スポーツを通じた体作り等を行った。また、毎年恒例となりつつある児童主体で行う夏休みイベントでは、玉入れゲームを行い、飾り付けや色塗り、景品となるビーズストラップ等の準備、当日は得点の計算、玉拾い等の活動のお手伝いを利用児個々の出来る力を活かし、役割を持って、取り組んだことで、達成感を得られたようだった。

今後も、それぞれの関係機関、相談支援専門員と情報交換や連携を密に図る事で、統一した支援やケアを行い、ご利用児の持つ可能性や、個々の成長に応じた力が伸ばせるよう支援を行うと共に、地域の中で安心して利用して頂ける環境や支援の工夫を行っていききたい。

2) 人材育成

質の高いサービス提供が行えるよう、新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、所外研修はオンライン研修等を含め参加可能な研修に参加し、専門職として必要な知識や技術を学び資質向上に努めた。

新職員への育成は、エルダー制による指導を行い、日々の思いや悩みを相談し易い環境作りや意見交換会を実施した。また、現任職員に対しても意見交換を行い、互いの思いや人材育成に向けた課題を共有し解決に向け取り組んだ。

今後も、職員一人ひとりが自己研鑽に努め、職員同士が互いを思いやりチーム力を高めながら、より質の高いサービス提供に取り組んでいきたい。

3) 地域貢献

今年度も新型コロナウイルス感染症対策を行った上で近隣の高校生に対し、継続して介護教室を実施し、車椅子の操作説明や乗車体験、アイマスク体験等を行う事ができた。その中で生徒の方から様々な感想が寄せられ、今後のボランティア活動に活かす事ができる体験になったと感じている。また、小学生に向けた福祉教室では車椅子乗車体験をしながら近くの商業施設に出掛け、道中の道の状態や店内の環境など、車椅子からどう見えているのか実際に体験してもらい日頃気付かないバリアフリーへの理解と関心を深めてもらう事ができた。地域との交流やボランティアの受け入れは

出来なかったが、今後は新たな生活様式の中で介護教室の実施や地域との交流、ボランティアの受け入れについて検討し、地域と繋がりながら、施設の強みや機能を活かし地域の課題に取り組んでいきたい。

4) 食生活

ご利用者の嗜好や要望を反映し、旬の食材を用いた季節の料理や行事食、馴染みの味の提供に努めた。

新型コロナウイルス感染症対策として、食堂では対面を避け適度な間隔が保てるように配慮した。日々の楽しみとして、介護職員と協力し、カレーやおでんなど食堂での盛り付けやお好み焼き、餃子などホットプレートを使い食堂で焼いたり、料理を保温しながら提供することで匂いも届き心待ちにされている様子がうかがえた。冬には鍋を再開し、各テーブルではなく、1ヶ所での盛り付けで実施したが、お代わりもされ「温かく美味しかった」と満足の笑顔が見られた。

一人ひとりの健康に繋がる食生活支援として、高齢化・重度化による咀嚼嚥下機能の低下にあわせ、安全で食べやすい形態の食事への変更について本人の気持ちも尊重しながら検討した。主菜のソフト食について、提供回数を増やすことができた。また食べる力を維持していくため、新型コロナウイルス感染症対策に応じた口腔体操や食事の姿勢や介助方法、栄養補助食品の活用など多職種で検討し、迅速な対応に努めた。その結果体調が回復し、元気に過ごされるなど効果が表れている。間食についても適量を楽しまれるように、繰り返しアドバイスをを行いながらご本人と共に考えた。食事の偏りや、個人購入品が多い方は体調が崩れる傾向にあり、個々に適した食生活への継続した支援が課題である。

災害時等の緊急事態に備え、いつでも誰でも対応できるように、備蓄食品を使った食事提供の訓練を2回実施した。

今後ご利用者が楽しめるような食事提供や、健康に過ごされるように多職種で連携し、より良い食生活支援へつなげたい。

5) 医療

年2回の血液検査、年1回のレントゲンの実施、毎日バイタル測定、排泄、食事、皮膚の状態などの確認を行い、嘱託医や他の医療機関、多職種間で連携しながら健康状態の把握と体調不良時の迅速な対応に努めた。

感染症対応については、ご利用者・職員の体調管理、施設内の換気、手洗い、うがい、消毒の徹底などの予防に注力したが、前述のとおり新型コロナウイルス感染者のクラスターが発生したことで、関係機関と連携を密にし、ゾーニング、防護具の使用徹底など、感染拡大防止策に努めたことで1ヶ月以内の早期に収束した。

職員の腰痛予防のため福祉用具を活用したり、職員の健康診断後に産業医との面談を行い、職員のメンタルヘルスケアに努めた。

今後もあらゆる感染症について情報をキャッチし、ご利用者、職員ともに安心・安全に過ごす事が出来るよう対応していきたい。

6) リハビリテーション

ご利用者個々のニーズや身体状況に応じたリハビリを実施し、機能の維持改善に努めた。感染症対策の為に3週間程リハビリを中止した期間があったが、再開時には身体機能や動作能力の変化に応じリハビリ内容を変更し、回復に努めた。職員体制の都合もあり、新たに挑戦したいことへの検討や対応は十分には実施できなかったが、コロナ禍で出来ていない外出や外泊時に必要な動作は維持出来る様に努めた。

個別のリハビリを実施されていないご利用者に対しても、車椅子乗車時、食事時の姿勢や自助具の活用、ベッド上での体転枕の当て方、移乗の仕方など、残存機能を活かしながら、介護者も共に負担少なく日々過ごせるよう、実生活の場で他職種と共に検討し対応を行った。

福祉用具の活用については関係諸機関と連携し、デモ機の試用や課題の検討を共に行い、個々に適したものの提供に努めた。今後も現状維持に留まらず、各専門性を活かしながら、他職種と連携し支援していきたい。

7) 住環境

新型コロナウイルスの感染状況をみながら例年同様ボランティアの方に、車椅子掃除を行って頂いた。また、月1回の一斉清掃を継続して実施し、浴室や換気扇の掃除等の施設全体の環境美化と併せ、修繕が必要となる箇所の確認も行った。クリーンタイムを設けて床掃除や居室内の整理を行い、日頃よりご利用者にも居住環境の美化、防災の意識を持って頂けるように心がけていった。今後ご利用者と一緒に環境整備が出来るよう継続して実施していきたい。

今年度も外部からの施設への出入りや面会の制限があり来訪者と接する機会は少なかったが、美

化への意識やおもてなしの心を忘れず対応することができた。今後もおもてなしの心を持って対応していけるよう努めていきたい。

8) 防災・防犯

消防に関する訓練においては、消防署・消防団の方の立ち合いや助言・指導を受け、昼夜それぞれを想定し、8月と12月に訓練を行った。消防設備に関しては、消防設備点検業者からの取り扱いの説明を受け、通報訓練・模擬消火訓練を行っている。

防犯についても、出雲警察署から講習を受け、不審者対応や日頃の防犯対策について学んだ。

自然災害に関する対応では、水害発生時に備え、令和3年度に策定した避難確保計画の周知を図るべく、所内で研修会を行った。また、この計画に沿った風水害マニュアルの見直しも行っている。

前年度から導入した、緊急時連絡手段としてのメール配信は、引き続き、抜き打ち発信で応答の訓練を行っており、職員に緊急時活用の意識が浸透してきている。

防災関連の備蓄品等については、委員会での備えるべきものの検討を行うとともに、検討結果に基づく排泄に必要な物品の準備を行っている。今後も備えるべき備蓄品の検討及びその管理について、その使用目的に応じて順次検討を行っている。

引き続き、防災・防犯の意識を持ち、全職員が迅速かつ冷静に対応できるように、マニュアルを活用し訓練を行いたい。また、令和6年度からは自然災害対応の事業継続計画に基づく、研修や訓練が義務化されることから、業務の継続性を踏まえた訓練の検討も行っていきたい。

9) 相談支援事業所

地域の方々の多様化するニーズに寄り添いながら、その人らしい生活が実現できるようにサービス提供事業所や関係機関と連携を深めながら支援を行った。新型コロナウイルス感染症の流行の中、適切な感染対策をとりながら業務を遂行する事ができた。

今年度就労支援事業所を利用し、働き甲斐を求められたり、一般就労を目指す力をつけたい新規のご利用者の方が多くおられ、その方の興味や出来る力に合った事業所の選定の為、見学に同行し、希望に添った形でサービスに繋げる事ができている。

委託事業所としては出雲市障がい者施策推進協議会に参加し、サービス調整運営会議や専門部会で地域の問題解決の為の意見交換や検討を行っている。今後も自立支援協議会や関係機関との連携を深め、相談支援の資質向上を目指しながら、ご利用者の立場に立ち、その方の自己実現に努めたい。